

十 令和 4 年度 若松原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤として、高い知識と豊かな心、たくましさを身につけ、地域社会や国家、世界に広く目を向けた人間を育成する。

(2) 目指す生徒像

- ① 自ら学ぶ生徒 ② 心豊かな生徒 ③ たくましい生徒 ④ 視野の広い生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

「あたたかい学校・活力のある学校・人の集まる学校」

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) あたたかい学校

- ・心の教育、望ましい人間関係づくりを図る
- ・学びやすい、生活しやすい環境を整備する
- ・花と緑を大切に潤いある環境を整備する
- ・教職員の資質向上と健康管理に努める

(2) 活力のある学校

- ・学業指導の充実に努める
- ・積極的な生徒指導を推進する
- ・特別支援教育の視点を十分に生かす
- ・体力・気力の向上と健康教育を推進する

(3) 人の集まる学校

- ・生徒が楽しいと感じる学校づくりに努める
- ・地域の人材、資源を活用した教育を推進する
- ・職員が働き甲斐のある職場づくりに努める
- ・地域活動や災害時避難場所として活用する

〔若松原地域学校園教育ビジョン〕

「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」

9年間の学校教育にかかわる教職員が、その思いと責任を共有し、連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

Society 5.0の到来を見据え、子どもたちが地域や国家・世界とのつながりの中で生活していることを自覚し、広い視野で物事を見て、考え、判断し、行動しようとする意欲と態度をもてるよう、教育課程と指導体制を工夫する。

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び学習指導要領の関係法令、及び県教育行政基本方針、市教育委員会管理運営規則、市学校教育スタンダードの示すところに従って編成する。
- (2) 地域や学校の実態を踏まえ、生徒の心身の発達段階や特性を十分考慮しながら、人間として調和のとれた育成を目指して特色のある教育課程を編成する。
- (3) 小中一貫教育、GIGAスクール、宇都宮学の趣旨を生かし、学校教育全般にわたる教育活動の充実を目指して、適切な運用が図れるよう配慮して編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

令和4年度 若松原中学校スローガン 「挑み、鍛えよ」

【学校運営】～教育目標の達成を目指すチーム学校づくり～

- ・生徒や家庭、地域、関係機関等と学校教育目標や学校経営の理念を共有することで、その達成に向かう集団づくりの推進に努める。
- 教職員一人一人の特性を生かした校務分掌を工夫することで、働き甲斐を大切にしながら、業務の効率化と働き方改革を進める。
- ・学校の公開や情報発信を積極的に行い、地域とのかかわりを深める工夫をすることで、地域の中核として愛される、開かれた学校づくりの推進に努める。

【学習指導】～子どもが意欲的に取り組む授業、学びに向かう集団づくり～

- ICT機器の利点を生かし、積極的に活用することで、授業改善を図り、主体的、対話的で深い学びを実現する。
- ・指導に生かす評価と追究意欲を高める課題を提示することで、生徒の学習意欲の向上を図る。
- ・家庭学習の習慣化と質の向上を目指し、一人一人に適した学びと授業を連携させることで、学力の定着を図る。

【児童生徒指導】～ともに成長できる集団づくりと自己指導能力の育成～

- ともに課題に挑戦し、互いに認め励まし、称え合うことで、自他共に成長できる集団づくりを推進する。
- 生徒が考え、実践し、決定させる機会を与えることで、自ら考え判断し、責任を持って実行できる自己指導能力の育成、向

- 上を図る。
- 自己理解を深めさせるとともに、自己効力感や自己有用感を高めさせることで、困難を克服し失敗から立ち上がる力(レジリエンス)の育成に努める。
 - 生徒理解に努め生徒の発達課題に応じた指導を展開し、生徒との良好な人間関係づくりを行うことで、自己肯定感、自己有用感をはぐくむ教育相談に努める。

【健康(体力・保健安全)】～強い体、折れない心、健康的な生活を目指して～

- 体力向上のための補強運動の実施と外遊びの強化をすることで、基礎体力の向上と、粘り強く取り組む意欲を養う。
- 個に応じた健康診断の事後指導や食育を行うことで、自他の生命や心の健康を大切にし、安全で豊かな生活への意識を高める。
- 新しい生活様式の定着や防災教育を充実、危機に対応できる能力の育成を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す 生 徒 の 姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 1 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・授業の振り返りにおいて、「主体的に学習に取り組む態度」の自己評価の場面を設定することで、主体的な取組を促す。 ・ICT 機器を積極的に活用することで、個別最適化を図るとともに、主体的な学びを実現するための授業改善を進める。 ・学習の計画や見通しを立てさせ、家庭学習に進んで取り組ませる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.2%で、数値指標を上回っている。保護者も 92.4%とポイントを伸ばしたが、教職員が 89.5%と昨年度を 3.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・ICT 機器を積極的に活用し、個別最適化を図るとともに、主体的な学びを実現するための授業改善を進める。 ・学習の計画や見通しを立てさせ、家庭学習に進んで取り組ませる。 ・教職員が連携を図ることで、主体的に取り組むことができる授業づくりに努める。
	A 2 生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A 2 A11 の生徒の肯定的回答が 85%以上	○道徳の授業において、思いやりについて深く考える場面を設定するとともに、教育活動全体を通して思いやりの心を育む。地域学校園でも重点項目として推進する。 ・黄ブナ作りや塚山清掃活動などを通して、地域貢献、思いやりの心を育くむ。 ・福祉教育の充実を図り、障害をもった方や高齢者などへの思いやりの心を育てる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.4%で、数値指標を上回っている。保護者、地域住民ともポイントは伸びたが、教職員が 84.2%と昨年度を 9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・地域学校園の道徳教育において思いやりを重点項目として積極的に推進し、互いを思いやる心を育む。 ・黄ブナ作りや塚山清掃活動などを通して、地域貢献、思いやりの心を育くむ。 ・障害をもった方との関わりを通して、福祉への理解を深める。 ・「若中プライド賞」を活用して、思いやりをもって自ら主体的に行動できる生徒の育成を図る。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 評価項目 A 3 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・毎月の生徒指導目標に対しての目標達成シートを記入させ、自分の行動を振り返らせることで、目標をもって行動ができるようにする。 ・きまりやマナーを守ることにに関して、全校生徒にアンケートをとり、生徒自らルールを決め、実践するなど、自主的・自律的な態度の育成に努める。 ・各種たよりやホームページを通して、学校の活動の様子をお知らせし、学校と家庭・地域が一体となって生徒を支援していく環境づくりを継続して整えていく。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.5%で、数値指標を上回っている。教職員、保護者の肯定的回答もそれぞれ昨年度を上回った。地域住民の肯定的回答は 100%であった。 【次年度の方針】 ・きまりやマナーについて「なぜ必要なのか」を考えさせ、TPO に応じた言動ができるように指導を継続するとともに、来年度は学校行事等を通して、生徒が考え、決定し、実践する機会を増やして、より一層自主的・自律的な態度の育成に努めたい。

A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 評価項目 A 4 の生徒の肯定的回答が 90%以上	・生徒会生活委員会を中心に「礼節週間」を実施し、授業開始終了時の「語先後礼」のあいさつの拡大を図る。 ○「あいさつ運動」や登下校指導を通して、地域との結びつきを強め、地域全体であいさつが飛び交う雰囲気作りを中学校から発信していく。また、地域社会の一員であるという自覚を持たせ、地域のために協力していく心を育てていく。 ・地域学校園での生徒会を中心としたあいさつ運動を通して、リーダーの育成を図る。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.6%で、数値指標を上回っている。保護者、地域住民の肯定的回答はそれぞれ昨年度を上回ったが、教職員の肯定的回答が 76.3%と昨年度を 12.3 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・「礼節週間」や「語先後礼」の取組を生徒に周知し、職員と全校生徒が目的意識をもって行動できるよう指導する。 ・「あいさつ運動」の取り組み方の工夫改善を図り目指す生徒像を明確にして、生徒会や生活委員だけでなく、全校生徒が主体的に取り組めるような方策を検討する。
A 5 生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 5 A 7 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・毎月の生徒指導目標に対しての目標達成シートを活用して、月ごとに目標をたて、スモールステップでの成長の場を設定する。 ・若中プライド賞を活用して、クラスや学年において、個人の努力や頑張りを賞賛することで、努力、がんばりを賞賛し合う雰囲気づくりを行う。 ・学習や部活動、学校行事など目標をもって取り組ませ、生徒同士がお互いに励まし合いながら、より高い目標に向かって努力する態度を育てる。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.0%で、数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答も 89.0%と昨年度を上回ったが、教職員の肯定的回答が 76.3%と昨年度を 5.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・生徒は学習や部活動、学校行事に目標をもって熱心に取り組んでおり、互いに切磋琢磨しながら成長していく様子が見られる。 ・様々な分野の活動が入り組み、生徒が余裕をもって諸活動に取り組めていないため、十分に評価できていない可能性がある。見通しをもって活動に取り組めるよう、それぞれの分野での情報共有をするなどの連携を強化を図る。
A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 評価項目 A 6 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・感染症対策を行いながらも、生徒が基礎体力の向上に取り組めるよう、体育の授業や部活動で適度な運動量を確保する。 ・保健体育委員会を中心に、昼休みの運動を呼びかける。 ・新型コロナウイルス感染症等の感染症対策を継続するために、保健だよりや生徒保健体育委員会の活動等を通して、保健教育の充実を図る。 ○地域学校園内で連携を図りながら、給食やお弁当の日を通して、栄養のバランスや自分に適した量を理解させ、食育の充実を図る。 ・避難訓練、各安全教室等を通して、自然災害や不審者に対する対応等の知識を深め、危機対応能力と判断力の育成を図る。 ・交通安全教室や登校指導を通して、身の周りの交通環境の理解や安全意識を高めることで、交通安全指導の充実を図り、危機対応能力の育成を図る。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.4%と、数値指標を上回っている。教職員、保護者の肯定的回答もそれぞれ昨年度を上回ったが、地域住民の肯定的回答が 77.8%と昨年度を 9.7 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・感染症対策を行いながらも、生徒が基礎体力の向上に取り組めるよう、体育の授業や部活動で運動量を確保する。 ・新型コロナウイルス感染症等の感染症対策の変更点等について随時確認し、感染拡大を予防するために、保健だよりや生徒保健体育委員会の活動等を通して、保健教育の充実を図る。 ○お弁当の日では、地域学校園で連携を図りながら実施方法を検討し、充実感を得られる食育を推進する。 ・避難訓練、各安全教室、集団下校や保護者への引き渡し確認などを通して、自然災害や不審者に対する対応等の知識を深め、危機対応能力の育成を図る。 ・交通安全教室を通して、身の回りの交通環境の理解や安全意識を高めることで、交通安全指導の充実を図り、危機対応能力の育成を図る。 ・道徳科の授業や学級活動、短学活等を活用して、日頃より交通ルールを遵守しようとする心情を育てる。

A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 評価項目A5A7の生徒の肯定的回答が85%以上	○地域学校園内で発達段階に応じたキャリア教育を系統立てて行う。 ・「社会人講話」や「宮チャレ」での体験を生かして、働く意味を各自で考えさせる。 ・キャリアパスポート、キャリア教育アンケートを活用し、将来に向けた自分像を描き、目標をもって学校生活が送れるようにさせる。 ・宮チャレやボランティア活動などの体験を通して「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は89.0%で、数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答も89.0%と昨年度を上回ったが、教職員の肯定的回答が76.3%と昨年度を5.5ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・キャリアパスポートやキャリア教育アンケート等を活用し、地域学校園で9年間のキャリア教育の充実を図る。 ・目指す生徒像を明確にして、自己評価や相互評価を行いながら、PDCAサイクルにのせ達成度を確認し、取組の改善を図っていく。 ・宮っ子チャレンジやボランティア活動などの体験を通して「視野を広く」を合い言葉に地域や社会へ貢献する態度を育てる。
A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 評価項目A8の生徒の肯定的回答が80%以上	○身近な場面で使える会話例を指導しながら使う場面を増やすことで、小中で連携し英語のコミュニケーションスキルを習得させる。 ・英語の授業を英語で実施する。対話活動では場面を設定したうえで、生徒同士、生徒と教師また、ALTと英語を使って交流する学習を多く取り入れる。	【達成状況】 生徒の肯定的回答は88.2%で、数値指標を上回っており、昨年度よりも4.4ポイント上昇している。教職員の肯定的回答は89.5%と昨年度を1.4ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・英語の授業を英語で実施する。場面設定をしたうえで、生徒同士やALT、教員との対話活動の機会を増やす。状況に応じた会話活動になるよう工夫改善を図っていく。
A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 評価項目A9の生徒の肯定的回答が80%以上	・社会科や総合的な学習の時間で地域や宇都宮のことを学び、自ら課題を設定して追究する学習を通して、新たな知識の獲得を図るとともに、宇都宮の良さを発見させる。 ・教職員自身が宇都宮市の良さを学ぶとともに、総合的な学習の時間の「宇都宮学」の充実を図る。 ・社会科を始め、各教科学習において宇都宮に関する学習を年間指導計画に明示し、宇都宮の良さを発見する機会を作る。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は80.5%で、数値指標を上回っている。保護者の肯定的回答は71.6%と5.9ポイント上回ったが、教職員は81.6%で、昨年度を0.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・宇都宮について取得した知識を活用して、宇都宮の未来について考えたり、魅力を表現したりすることで、宮っ子としての誇りをもてる心を養う。 ・「宇都宮学」の年間指導計画の見直しを行うとともに、追究学習の学びにおける工夫改善を図り、宇都宮への愛情と誇りをもてるよう育成する。
A10 生徒は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 評価項目A10A25の教職員の肯定的回答が90%	・授業において生徒が端末を活用し、学習を進める授業を展開する。 ・ICT機器（端末、デジタル教科書、デジタルカメラ等）の活用法について啓発を行い、家庭学習にも活用できるようにする。 ・図書館利用のガイダンスを全学年で年1回以上行い、生徒が学習に活用しやすいようにする。 ・図書館司書と連携し、図書室を利用した学習活動のモデルや授業で活用できる図書を紹介し、図書の利用を促す。	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%で、数値指標を大きく上回った。保護者、生徒の肯定的回答が昨年度を下回っている。 【次年度の方針】 ・授業において生徒が端末を有効活用できるようにデジタル環境を整備する。 ・各教科・領域の年間指導計画のもと、ICT機器や図書を利用した学習活動を取り入れることで、情報活用力の向上を図る。 ・端末使用のルールを徹底できるよう、生徒指導と協力し、生徒、教員に周知することで、デジタルシチズンシップの力を育てる。 ・図書館司書と連携し、図書室を利用した学習活動のモデルや授業で活用できる図書を紹介し、図書の利用を促す。 ・教職員の推薦による購入図書を拡充するなど、より実態に沿った購入計画を立てることで、授業での図書室活用を促進する。

目 指 す 学 校 の 姿	A11 生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A2 A11 の生徒の肯定的回答が 85%以上	・道徳の授業において、高齢者への思いやりを育てる題材を取り入れたり、地域へのボランティア活動を通して、高齢者と接する機会をつくったりして、感謝といたわりの心を育む。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.4%で、数値指標を上回っている。保護者、地域住民ともポイントは伸びたが、教職員が 84.2%と昨年度を 9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・道徳教育における重点目標に掲げ、道徳の授業を中心に互いを思いやる心を育む教育活動の関連を図りながら推進するとともに、学校に思いを寄せてくれる方々にその気持ちが直接伝わるような活動を学校行事や生徒会活動に組み入れる。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 評価項目 A12 の教職員の肯定的回答が 80%以上	・総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育科、技術・家庭科などの教科学習においても「持続可能な社会」について年間指導計画に明示する。 ・エネルギー、資源、防災、感染症の問題を取り上げ、持続可能な社会について考えさせたり議論させたりする機会を設ける。 ・校内の掲示コーナーに環境問題を啓発するようなポスターやチラシを貼るなど生徒の関心が高まる環境をつくる。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 73.7%で、数値目標を 6.3 ポイント下回った。生徒の肯定的回答は 73.5%であった。 【次年度の方針】 ・今年度に引き続き、総合的な学習の時間を中心に、社会科、国語科、理科、保健体育科、技術・家庭科などの教科学習においても「持続可能な社会」について取り上げ、年間指導計画に明示し、考え、議論させたり実感させたりする機会を作る。 ・校内に SDGs 専用の特設コーナーを設け、生徒会や各専門員会で取り組んでいる活動を紹介するなどし、全校生徒が協力して課題解決に向けて率先して取り組めるよう工夫する。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒や外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A13A16 の教職員の肯定的回答が 90%	・教育相談を充実させ、生徒一人一人の困り感の把握に努める。 ・学年や校内支援委員会、教育相談部会において特別な支援を要する生徒について共通理解を図り、組織力を生かした適切な対策を立て実践する。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 92.1%であり、数値指標を上回っているが、昨年度を 7.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・学年会や校内支援委員会、教育相談部会などを活用して、情報共有を徹底するとともに、組織力を生かした対策を立てて実践する。特別支援学級担当を教育相談部会のメンバーに加え、月 1 回程度特別な支援を必要とする生徒について話し合う機会を設ける。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 評価項目 A14 の生徒の肯定的回答が 90%以上	・毎日の校内巡回やスタンダードダイアリーの確認、定期的な教育相談やいじめ調査等を活用して、生徒の様子の把握し、いじめへの早期対応や早期発見・未然防止に努める。 ・全校生徒によるいじめゼロ標語の作成やリボンの掲示・放送集会等を行い、いじめが許されない行為であるという意識を学校全体で共有していく。 ・学校のいじめ対策について、保護者会や生徒指導通信などの各種たより、ホームページ等であらゆる機会を利用して周知していく。 ・いじめの問題は、学校、家庭、地域及び関係機関が連携して取り組むべき問題であることを機会あるごとに啓発していく。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.0%で、数値指標を上回っている。教職員の肯定的回答は 100%であった。保護者、地域住民の肯定的回答はそれぞれ 79.9%、66.7%と昨年度を下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き年 5 回のアンケートや、教育相談等で生徒の様子の把握に努める。 ・全校生徒によるいじめゼロ標語の作成やリボンの掲示・放送集会等を行い、いじめが許されない行為であるという意識を学校全体で共有することができた。来年度は年に複数回全校集会を実施したい。 ・学校での取組状況を、各種たよりやホームページによる周知だけでなく、地域に効果的に発信できる方法を検討し、実践する。 ・地域未来会議において地域住民と中学生がいじめの問題について語り合う機会をもつように計画する。

A15 教職員は、不登校を生まないう、一人一人の児童生徒を大切にし、児童生徒がともに認め励まし合う学級経営を行っている。 【数値指標】 評価項目 A15 の 生徒の肯定的回答が 90%以上	・1日休んだら電話連絡、2日休んだら家庭訪問を原則とし、行き渋り等の早期対応を図る。 ・ケース会議を活用して、行き渋りが見られた場合の早期対応策について検討し、共有する。 ・学級活動において意図的に相互評価や賞賛の場を設けることで、生徒同士がお互いを認め、励まし合える学級の雰囲気作りに努める。 ・教育相談部会での情報交換を図り、S U R やかがやき R 等の学習室(別室)の環境整備と学習支援の充実を図る。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.8%であり、数値指標を上回っている。教職員の肯定的回答が 100%であった。保護者の肯定的回答は 89.4%と昨年度を 1.4 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・年間を通して、日頃の学校生活や学校行事等において、お互いの良さを伝え合ったり、認め合ったりする機会を設けることができた。また、若中プライド賞では、教員が生徒の善行を表彰し、学校全体で認め励まし合う雰囲気を醸成することができた。来年度も継続して実施していく。 ・不登校や別室登校になる前の対策や、行き渋りが見られた場合の早期対応策についてさらに検討し、共有する。教育相談部会の内容を充実させ、別室対応の生徒についての振り返りや目標設定を定期的実施する。
A16 教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒や外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 評価項目 A13A16 の 教職員の肯定的回答が 90%以上	・国際理解や異文化理解の教育の推進を図り、異なる習慣や文化、さまざまな考え方をもちた生徒へ理解を示す態度を育てる。 ○地域学校園内や他区から転入学してくる外国人生徒の情報を迅速に集め、登校初日から生徒の実態に応じた配慮を行うことができるような校内体制を構築する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答は 92.1%であり、数値指標を上回っているが、昨年度を 7.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・来年度も継続してケース会議を定期的にもち、特別な支援を要する生徒についてのアプローチを協議し、実践し、評価・改善していく。 ・日本の文化や習慣にスムーズに適應できるよう、生徒の実情に合わせて必要な支援を行う。
A17 学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 評価項目 A17 の 生徒の肯定的回答が 85%以上	・居がいのある集団作りをめざし、学校行事等生徒が主体的に活動できる場をより多く設定し、自尊感情を育成する。 ・学校行事や生徒会活動の目標や趣旨を十分に理解させ、お互いに励まし、認め合う集団づくりを実践することで、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう諸活動を推進していく。 ・「若中プライド賞」として生徒の善行表彰を行い、生徒の達成感や自己肯定感を高める一助とする。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.5%で、数値指標を上回っている。教職員、保護者、地域住民の肯定的回答がそれぞれ 100%、92.4%、90.9%と 90%を上回っている。 【次年度の方針】 ・昨年同様に、クラスや学年ごとに互いを認め励まし合う雰囲気の醸成に努め、生徒一人一人の自己肯定感を高める取組を行い、学級や学年間でも共有する。 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動や学校行事の充実を図り、達成感や充実感を味わわせる。 ・生徒の善行が様々な場面で見られるようになってきたので、来年度も機会を捉えて「若中プライド賞」を継続し、生徒の善行の表彰を行い、生徒の達成感や自己肯定感を高めていく。
A18 教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている。 【数値指標】 評価項目 A18 の 教職員の肯定的回答が 90%以上	・教職員一人一人が授業力向上を実感できるような研修の充実を図る。 ○職員研修等を通して I C T 機器をはじめとした教具の効果的な活用を推進し、分かる授業への改善を図る。 ○習熟度学習や T T など指導形態を工夫し、生徒一人一人が習得を実感できるきめ細やかな指導を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%で数値指標を上回っている。生徒の肯定的評価も 94.2%で、昨年から 2.4 ポイント上昇した。保護者の肯定的回答は 83.4%であった。 【次年度の方針】 ・教職員一人一人が授業力向上を実感したり、I C T 機器の効果的な使い方について共有したりできる授業力向上研修を計画、実施し、充実を図る。 ・習熟度学習や T T など指導形態を工夫し、生徒一人一人の困り感を把握することで、生徒の実態に合わせたきめ細やかな指導を行うことについて再検討し、個別最適な学びの充実を推進する。

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 19 の教職員の肯定的回答が 90%以上	・SC, MS, かがやき指導員, ステップアップルームのより良い活用を模索し, 全職員でのサポート体制を推進する。 ・かがやきルームを活用し, 生徒への学習支援を促進する。 ・ステップアップルームをより多くの教職員の対応として, 多くの教職員で見守るスタイルを確立する。 ・地域コーディネーターと地域連携教員の連携を密にし, 信頼関係を構築しながら業務を遂行する。 ・コロナ禍においても実践可能な地域との連携について方策を工夫してつながり感を高める取組を検討し, 実践する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 89.5%であり, 数値指標を 0.5 ポイント下回った。また, 昨年度を 10.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・SC, MS, かがやき指導員, ステップアップルームとの連携を継続し, 全職員でのサポート体制を推進していく。 ・地域連携について, 地域未来塾や地域未来会議, 花壇ボランティア等実践できることも増えてきているので, 実践可能な活動を拡充してつながり感を高める取組を一層推進していく。 ・各学年の協力体制は良好であるので, さらに学年間の連携, 協力を推進していく。 ・個々の教職員に対し, 目配り, 気配り, 心配りしてサポートする体制づくりを推進し, 今年度以上に互いに個々の教職員へのサポートを推進する。
A 20 学校は, 教職員の勤務時間を意識して, 業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 評価項目 A 20 の教職員の肯定的回答が 85%以上	・会議のペーパーレス化, 一斉メール配信による連絡の徹底など, 効率化を意識した業務の改善を行う。 ・PDCAサイクルに基づき, ワークライフバランスの視点に立って, 各分掌の計画の段階から業務改善の視点を盛り込み, 行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組み, バランスの良い教育課程に努める。 ・ノー残業デーを月 1 回実施し, 教職員の働き方に関する意識改善を図る。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 81.6%であり, 数値指標を下回ったが, 昨年度を 4.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ワークライフバランスの視点に立って, 働き方改革を教職員一人一人が考え, 判断して意識の向上を図る。 ・PDCA サイクルに基づき, 引き続き行事の見直しや校務分掌の再編成に取り組む。 ・部活動改革, 通知表の改訂, 採点システム導入等により一層業務の効率化を図っていく。
A 21 学校は, 「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 評価項目 A 21 の教職員の肯定的回答が 95%以上	・生徒会を中心にWGSあいさつ運動やボランティア活動で交流することにより, 生徒の地域学校園の一員であるという意識を高める。 ・各教科において小中連携を意識した一貫性のある授業実践を行うために教科ごとに学習のPDCAサイクルを確立し, カリキュラムマネジメントの実現を図る。 ・校内の掲示板や生徒会朝会, 校内放送等を利用して, 活動の実績報告やボランティアの募集等を行い生徒に活動の機会が得やすくできるようにする。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 92.1%であり, 数値指標を下回っている。また, 地域住民の肯定的回答が 81.8%と昨年度を 19.3 ポイント上回った。保護者, 生徒の肯定的回答は 80%に及ばなかった。 【次年度の方針】 ・9年間の連続した学びの充実, 学力向上に重点をあて推進計画や組織編成を見直す。教科部会を中心とした小中連携を図るようスリム化を図る。 ・生徒会を中心に行っているWGSあいさつ運動やボランティア活動での交流を, 校内の掲示板等を利用して生徒へ積極的に情報発信していく。 ・生徒会朝会や校内放送等を利用して, 活動の実績報告やボランティアの募集等を行い生徒に積極的な情報の発信を行う。

A22 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 評価項目 A22A23 の教職員と地域住民の肯定的回答が 90%以上	・学校に隣接するコミュニティセンターを放課後の学習支援の場とし、地域の講師が生徒に勉強を教える体制を作る。 ・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに活用する体制を作る。 ・生徒会と地域協議会の意見交換の場である、地域未来会議を充実させ、地域について考える機会を作る。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 94.7%であり、数値指標を上回っている。地域住民の肯定的回答は 81.8%であり、数値指標を下回っているが、昨年度を 21.8 ポイント上回っている。また、保護者、生徒の肯定的回答が昨年度を上回った。 【次年度の方針】 ・地域未来塾を継続し、地域の教育力を活用しながら家庭学習の充実へとつなぐ。 ・地域協議会が中心となって地域の人材を募集し、図書館やバラ園などの環境整備ボランティアに活用する体制を作る。 ・地域未来会議を継続して開催し、地域の実態やニーズに応じたテーマを設定して、地域協議会と生徒会の交流を促進する。 ・「働く人に学ぶ」や社会体験学習(宮っ子チャレンジ)において、地域や企業等との連携を図り、活動の充実を図る。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 評価項目 A22A23 の教職員と地域住民の肯定的回答がともに 90%以上	・地域協議会との連携を図ることを通して、地域の教育力を学校教育活動に生かす場を設けていく。 ・地域や企業に本校の実態についての情報を積極的に発信することなどを通して、連携を深め、1年生の「働く人に学ぶ」、2年生の「社会体験学習」において、より効果的な学習が展開できるように努力していく。 ・次年度も各種便りを積極的に活用するとともに、ホームページ更新をまめにし、保護者・地域住民への最新情報の発信に努める。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 94.7%であり、数値指標を上回っている。地域住民の肯定的回答は 81.8%であり、数値指標を下回っているが、昨年度を 21.8 ポイント上回っている。また、保護者、生徒の肯定的回答が昨年度を上回った。 【次年度の方針】 ・「働く人に学ぶ」や社会体験学習(宮っ子チャレンジ)において、地域や企業等との連携を図り、活動の充実を図る。 ・各種たよりを原則としてさくら連絡網を活用して発信することで、保護者、地域住民へ最新情報を届ける。 ・ホームページの担当係や更新のシステムを見直し、こまめにホームページ更新に努めることで、地域への発信力を高めるとともに、学校教育に対する理解を深める。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 評価項目 A24 の保護者と地域住民の肯定的回答がともに 80%以上	・施設の老朽化が進み、修繕が必要な箇所が多数あるため、生徒の安全を第一に考えながら、市教委と連絡を密にし、計画的に修繕を進めていく。 ・地域住民の考える課題を明確にし、その改善も含めて毎月の安全点検や修理が必要な個所の報告・連絡を密にして計画的に修繕を進めていく。 ・地域協議会等で、施設整備に関して情報発信を行うなど、地域と一体になって取り組む。	A 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 91.6%、地域住民の肯定的回答が 90%であり、数値指標を上回っている。教職員の肯定的回答も 97.4%であった。 【次年度の方針】 ・地域協議会等を活用し、地域住民の考える課題を明確にし、その改善も含めて毎月の安全点検や修理が必要な個所の報告・連絡を密にして計画的に修繕を進めていく。

	A25 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 評価項目A10A25の教職員の肯定的回答が90%	・情報担当者の責任のもと、I C T機器の一括管理を行い、各教科の学習に必要なI C T機器の整備を行い、管理と運用を工夫する。 ・端末を使用して授業が行える環境を整備する ・図書館教育担当者が授業に使える図書の希望をとり、図書の充実を図る。 ・教科学習や総合的な学習に時間に図書を利用する機会が増えるよう各年間指導計画に活用場面を明示する。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は100%であり、数値指標を大きく上回った。保護者、生徒の肯定的回答が昨年度を下回っている。 【次年度の方針】 ・教職員が手軽に利用しやすいよう、機器の保管場所や貸し出し方法の工夫・周知を行う。 ・端末を使用して授業が行いやすい環境を作るため、周辺機器の整備を行い、管理と運用を工夫する。 ・教科学習や総合的な学習の時間に図書を利用する機会が増えるよう各年間指導計画に活用場面を明示し、その活用に合わせて図書の準備を計画的に行う。 ・教職員の推薦による購入図書を拡充するなど、より実態に沿った購入計画を立てる。
本校の特色・課題等	B1 学校は、一人一台端末等のI C Tを活用して、学力向上に取り組んでいる。 【数値目標】 評価項目B1の教職員の肯定的回答が80%以上	○ICT機器を積極的に活用することで、授業改善を図り、主体的、対話的で深い学びを実現する。 ・「鍛錬タイム(水曜日特設6校時)」やAIDリル等を活用することで、一人一人に適した家庭学習と授業を連携させ、指導の充実を図る。	A 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答が100%であり、数値指標を大きく上回っている。また、生徒、地域住民の肯定的回答がそれぞれ92.4%、90%と90%を上回っている。保護者の肯定的回答は84.2%であった。 【次年度の方針】 ・今年度の成果を生かし、各教科におけるICT機器の活用の幅をさらに広げられるように、教員間での情報交換・研修を行う。 ・授業におけるより効果的な活用が行われるように、年間指導計画への位置づけを図る。 ・鍛錬タイムの実施を朝の読書の時間に位置づけ、より集中して行える環境を整える。
	B2 学校は、道徳科や学級活動の授業、学校行事等を通してよりよい人間関係づくりの促進に積極的取り組み、情報発信している。 【数値目標】 評価項目B2の保護者の肯定的回答が80%以上	・道徳科や学級活動の時間に意図的、計画的にソーシャルスキルトレーニングやグループエンカウンターを位置付け、よりよい人間関係を築こうとする力を身に付けさせる。 ・各種便りやホームページ等を活用したり、授業を公開したりすることで、学校の取組や授業の様子を情報発信するように努める。	A 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は、85.8%であり、数値目標を上回っている。教職員、地域住民、生徒もそれぞれ97.4%、80%、88.2%と、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・年度初めのグループエンカウンターを特に重点的に実施した。また、日頃の学級活動とともに、体育祭や文化祭、スマホ安全教室などを機会として、ソーシャルスキルトレーニングを実施し、望ましい対人スキルを習得させることに努めた。来年度も継続して実施していきたい。

B3 生徒は、学校行事や部活動で目標をもって一生懸命活動し、困難な状況になってもあきらめることなく最後までやり遂げている。 【数値目標】 評価項目B3の 生徒の肯定的回答が 80%以上	・困難を克服し、不安から立ち上がる力（レジリエンス）を育成するため、ソーシャルスキルの習得に係る取組を教育課程に位置付ける。 ・総合運動公園第2陸上競技場を活用した体育祭の実施を計画し、生徒が主体的に活動できる場を設定する。 ・体育祭や文化祭等の学校行事において互いを励まし、認め合う中で生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるよう支援する。 ・学校行事や部活動において、生徒に目標を立てさせ、スモールステップで小さな成功体験を積み重ねながら大きな目標に向かい努力するよう指導する。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.2%であり、数値指標を上回っている。教職員、保護者、地域住民もそれぞれ100%, 92.0%, 87.5%と、数値指標を上回っている。 【次年度の方針】 ・新型コロナ禍の中、困難を克服し、不安から立ち上がる力（レジリエンス）を育成するため、体育祭や文化祭などの学校行事と部活動で、ソーシャルスキルの習得を目指した生徒が主体的に活動できる場を設定する。
B4 生徒は、地域と連携したあいさつ運動やボランティア活動等に積極的に参加している。 【数値目標】 評価項目B4の 地域住民の肯定的回答が 80%以上	OPTAや地域協議会と連携したあいさつ運動を推進し、人間関係の育成に努める。 ・「リトルクリーン作戦」や塚山古墳清掃のボランティア活動を通して、奉仕の心や地域に積極的に貢献しようとする心を育む。	【達成状況】 ・地域住民の肯定的回答は、90%であり、数値指標を上回っている。また、教職員、保護者、生徒の肯定的回答がそれぞれ 92.1%, 78.3%, 83.1%と、数値目標を上回っている。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動の実施方法の見直しを行い、PTAや地域協議会と連携を図りながら全校生徒が率先してあいさつできるような雰囲気づくりに努める。 ・「リトルクリーン活動」や清掃活動の場所の拡大、地域施設との交流会等を検討し、奉仕の心を育成させるとともに、地域に積極的に貢献しようとする態度を養う。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

☆アンケートから概ね良好であり、顕著な成果が現れたと考えられること

- ・数値指標を上回った項目は、以下の26項目であった。
(A1) (A2) (A3) (A4) (A5) (A6) (A7) (A8) (A9) (A10) (A11) (A13) (A14) (A15) (A16) (A17) (A18) (A20) (A21) (A22) (A24) (A25) (B1) (B2) (B3) (B4)
- ・「教職員・保護者・地域住民・生徒の該当全てで肯定的回答が80%を超えている項目」は以下のように8項目であった。
(A1) (A2) (A3) (A6) (A15) (A17) (A18) (A24) (B1) (B2) (B3)
- ・生徒の肯定的回答が2年連続で上昇している項目が、以下の6項目であった。
(A4) (A5) (A7) (A8) (A9) (A12) (A18)
- ・保護者の肯定的回答が2年連続で上昇している項目が、以下の9項目であった。
(A1) (A2) (A11) (A3) (A4) (A5) (A7) (A6) (A9) (A22) (A23) (A24)
- ・地域住民の肯定的回答が、前年度比10ポイント以上上昇した項目が4項目であった。
(A2) (A11) (A21) (A22) (A23) (A24)
- ・(A21)の生徒の肯定的回答が前年比16.0ポイント上昇した。

★アンケートから課題と考えられること

- ・数値指標を下回った項目は、以下の4項目であった。(A12) (A19) (A20) (A21)
- ・「評価者の中でいずれかの肯定的回答が80%未満の項目」は以下の通り項目あった。
(A4) 児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。(教職員 76.3% 前年比－12.3)
(A5 A7) 児童生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。(教職員 76.3% 前年比－5.5)
(A6) 児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。(地域住民 77.8% 前年比－9.7)

- (A8) 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。(保護者 71.6% 前年比+5.9)
- (A9) 児童生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している。(保護者 73.9% 前年比+6.2)
- (A12) 児童生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。
(教職員 73.7% 前年比+5.9%)(生徒 73.5% 前年比+2.0)
- (A14) 学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。(保護者 79.9% 前年比+3.1)(地域住民 66.7% 前年比+33.3)
- (A21) 学校は、「小中一貫・地域学校園」の取組を行っている。
(保護者 78.9% 前年比+0.7)(生徒 68.9% 前年比+16.0)
- (A22 A23) 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。
(生徒 75.1% 前年比+2.5)
- (B4) 生徒は、地域と連携したあいさつ運動やボランティア活動等に積極的に参加している。(保護者 78.3%)
- ・前年比+10 ポイント以上の項目が、以下の3項目であった。
- (A4) 児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。(教職員 前年比+12.3)
- (A14) 学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。(地域住民 前年比+33.3)
- (A19) 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。(教職員 前年比+10.5)

7 学校関係者評価

- ・あいさつ運動、宮っ子チャレンジ等、若松原中生とかかわる機会の中で生徒一人一人の言動から、温かい言葉や穏やかな表情を感じ取ることができる。引き続き小中が連携していくことで地域学校園の成長につながると思う。
- ・敬老会の折に黄ぶなの折り紙づくりをして贈呈していただき、地域住民より感謝の声が多く聞かれた。
- ・生徒の日常の姿、WGS あいさつ運動や宮っ子チャレンジ等で生徒の姿が見える項目については評価されているのだと思う。
- ・学校のグラウンドを夜間に使う人が多くなり、若い人、高齢者の方が学校を訪問する機会が増えているが、学校内の安全に対して評判が良い。
- ・校長先生はじめ諸先生方が丁寧な指導・支援を継続的に行っているのも、今の落ち着いた若松原中学校が顕在しているのだと思う。生徒一人一人の良さを引き出しつつ課題解決に取り組み、成長につなげていくことで、育てたい資質・能力の向上になると思う。
- ・生徒は穏やかに学校生活を送っている。また、行動から心が安定していることが見てとれる。
- ・体育祭、学校公開に参加させていただき、生徒の活動の様子を実際に見ることができ、(A2 A11)(A21)(A22 A23)の項目に関する取組は、学校とのかかわりを通してこそ理解が深まると実感した。
- ・コロナ禍、小中一貫教育において地域学校園の取組は大変だったと思うが、地域住民の肯定的回答が昨年比 19.3 ポイント上昇したことは良かったです。
- ・子ども達は落ち着いて真面目に、元気に学習、運動、学校生活に取り組んでいると思う。悪い部分はほとんど見られない。コロナ禍も落ち着いてくると思うので、一層地域連携活動を推進してほしい。
- ・ICTの活用が推進されたことが良かったです。
- ・学校内と学校外では生徒の違う姿が見られるかもしれない。児童生徒も地域の一員であるという自覚をもつ指導助言を継続していく必要がある。
- ・「(A14)学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる。」項目の地域住民の肯定的回答が、前年比大きくマイナスであったことは心配です。
- ・先生方の細やかな目、見抜く、寄り添うなどの丁寧な指導や支援をお願いできればありがたい。
- ・地域協議会の委員やPTAがもっと学校に出向いてもらえれば評価することができると思う。特に、(A6)(A14)(A16)の項目にあるような、学校の活気や明るさ、いじめ対策について分かり、評価できると思う。
- ・地域未来会議で生徒と地域住民が交流する場は非常に良い機会であるので、地域未来会議を年に2回開催してほしい。
- ・学校評価の結果を重視するあまり、生徒の個性を殺さないでほしい。学校評価はあくまで結果論であって、大切なのは目標にどう向かっていくかだと思う。学校も地域協議会も本末転倒にならぬよう注意すべきだと思う。
- ・学校教育目標に基づいて、丁寧な教育がなされていることに自信をもって進んでほしいと願う。地域の一員として今後も手伝っていききたい。
- ・地域への発信、PRをどうするのが鍵だと思う。
- ・コロナ禍が落ち着いてきたら、PTAのOBやOG、地域で活動している人たちが来校しやすい環境をつくってほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・本年度も、WEBによる学校評価ということで、保護者(50.5%)と地域住民(47.8%)からの回答が少なかった。
- ・今年度は、学校独自のアンケート項目「(B1～B4)」を見直し、特色ある学校づくりの具体的な取組として掲げる4つのプロジェクトとの関連から検証する内容に変更した。
- ・昨年度以前から継続している項目については、目標値を少しずつ高めに設定し、その達成に向け改善を進めてきた。その結果、全24項目中、20項目で数値目標を達成することができるなど、全体的には良好な結果であったと考える。しかしその反面、数値目標をクリアできなかった項目が4項目あった。また、自由記述には、好意的な意見が多数を占める一方で厳しいご意見もあった。期待の表れとして捉え、教職員一同、課題の改善に向けて努力していきたい。
- 「(A4)児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」項目や「(A5 A7)児童生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」項目では、生徒の肯定的回答は2年連続で上昇しているものの、教職員の肯定的回答が前年比マイナスとなり、生徒と教職員の間に意識の乖離が見られる。来年度は、教職員が「目指す生徒像」を具体化することにより、目標とする生徒の姿の基準を明確化して取り組んでいきたい。
- ・「(A20) 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」項目に関しては、部活動の時間の見直しや通知表の改訂、採点システム導入等により一層業務の効率化を図り、業務改善を推進していく。
- 「(A21) 学校は、『小中一貫・地域学校園』の取り組みを行っている。」項目では、組織や計画を見直し、9年間の連続した学びの充実、学力向上に重点をあてスリム化を図るとともに、生徒会を中心に行っているWGSあいさつ運動やボランティア活動での交流を促進し、校内の掲示板等を利用して生徒へ積極的に情報発信していく。
- ・「(A19)学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」項目では、個々の教職員に対し、目配り、気配り、心配りして互いにサポートする体制づくりを推進し、今年度以上に「チーム若松原中」の組織力を高め、全職員で教育活動の効果を高めていきたい。
- 「(A22) (A23) 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」項目は、昨年度から開催している地域未来会議を2回計画し、地域住民と交流を深めつつ、意見交換→検証ができるよう充実させたいと考える。また、地域未来会議を含め、コロナ禍で停滞した地域協議会との連携の在り方を新たな形で構築していきたい。
- ・全体として、学校としてこれまで以上に諸活動に誠意をもって取り組むと同時に、一斉メール配信やホームページ、学校だより等を活用して、より一層、学校の取組や現状を保護者のみならず地域にも発信し、情報を正確に伝え、理解を得る努力を続けていく。